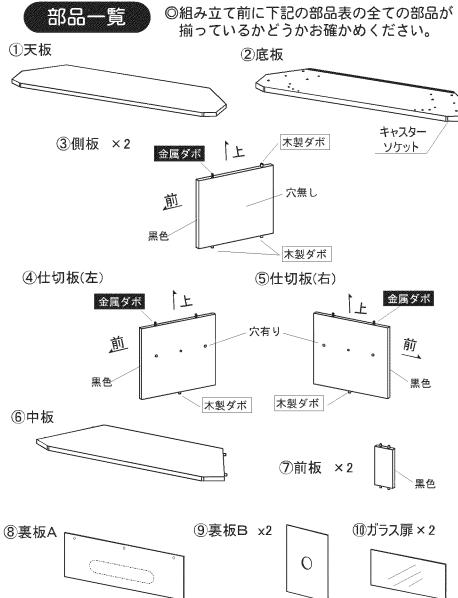


Swing

薄型テレビスタンド AS-CN1200-B

組立説明書



No.	部品図	部品名	数量	No.	部品図	部品名	数量
(1)		ラバネジ	8	(8)		キャスタートレイ	2
(2)		回転ピン(A)	2	(9)		マグネットラッッチ(W)	1
(3)		回転ピン(B)	2	(10)		マグネットラッッチ用取付ねじ	2
(4)		プレート	2	(11)		転倒防止ロープ	1
(5)		固定ねじ	3	(12)		ワッシャー	2
(6)		キャスター(シルバー)	2	(13)		転倒防止ロープ用取付ねじ	1
(7)		キャスター(ブラック)	4				

◆ご用意の道具
 プラスドライバー

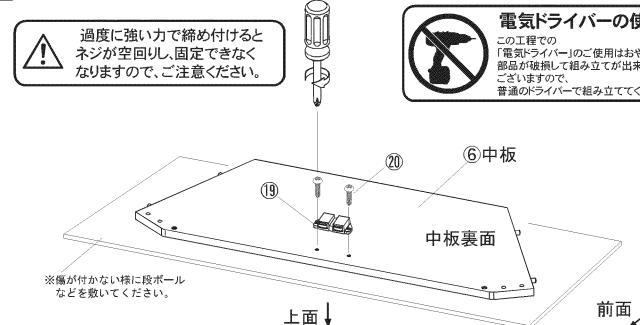
取扱い上のご注意

- 直射日光にあてたり、ストーブのそばにおくと光や熱により変色、変形することがありますのでご注意ください。
- この製品にセロテープ、ラベル等を貼らないでください。
(はがすときに表面の化粧面がはがれる場合があります。)
- お手入れのしがた
 - 汚れをとるときは、乾いた布でふいてください。汚れのひどい時は、中性洗剤をしみ込ませた布をかたしもったもの、又は家庭用クリーナーで汚れを落としてから、乾いた布でふいてください。
 - ベンジン、シンナーの使用は、変色や色ハゲの原因になりますのでおやめください。(化学ぞうきんをご使用の際はその注意書きにしたがってください。)

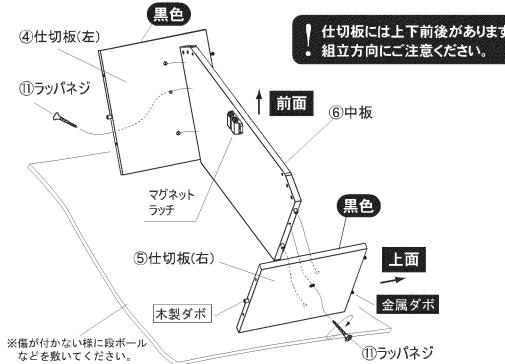
お買いあげいただきありがとうございます。組み立てる前にこの組立説明書を必ずお読みください。
その後大切に保管し、必要なときにお読みください。

朝日本材加工株式会社
〒440-0071 愛知県豊橋市北島町字北島87番地 TEL (0532)53-3338
※仕所電話番号は変更になることがありますのでご承ください。

1 中板へ、マグネットラッッチの取り付け



2 中板と仕切板(右),(左)の組み立て



3 天板と仕切板、側板の組み立て

上下向きに注意して組み立ててください。

手順

- 仕切板(右),(左)を天板のジョイント
金具に金属ダボを隙間の無い
ようにしっかりと差し込む。
- プラスドライバーでロック
(約120°) 締めるします。

側板、仕切板(右),(左)を上から
しっかりと押さえ、組み立ててください。
※押さえが不十分だとジョイントを
ロック出来ない場合があります。

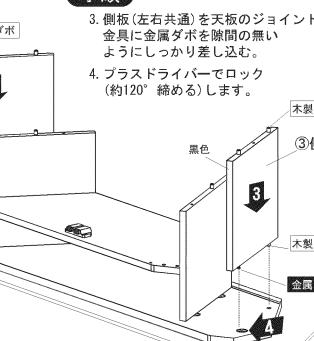
うまくロックできない場合は、
一度ドライバーで「↓」に回して
最初からやり直してください。

※傷が付かない様に段ボール
などを敷いてください。

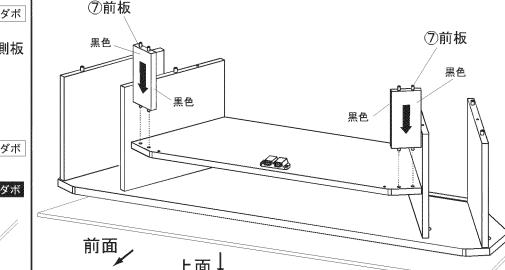
天板① 前面 上面 ↓

手順

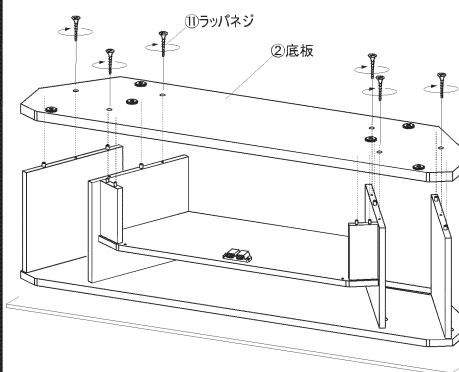
- 側板(左右共通)を天板のジョイント
金具に金属ダボを隙間の無い
ようにしっかりと差し込む。
- プラスドライバーでロック
(約120°) 締めるします。



4 前板の組み立て

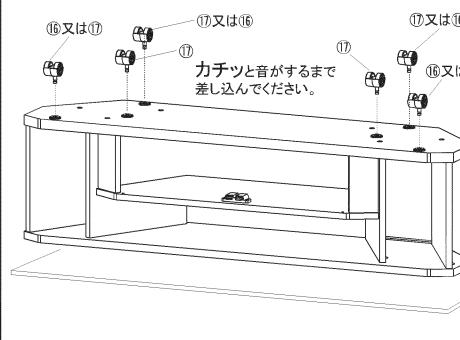


6 底板の組み立て



5 キャスターの取り付け

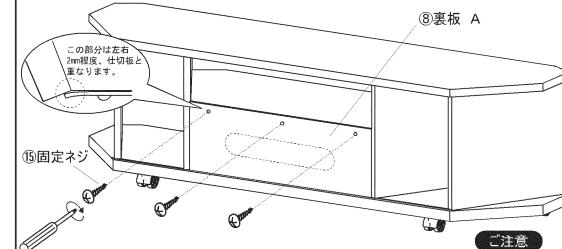
※キャスターは、シルバーとブラックの2色から
お好みで取り付けてください。



7 裏板Aの組み立て

手順

- 本体をゆっくりと起こしてから底板ミゾに合わせて裏板を差し込みます。
【裏板は黒の面が内側です。】
- プラスドライバーを用いて固定ねじで3ヶ所締付けます。

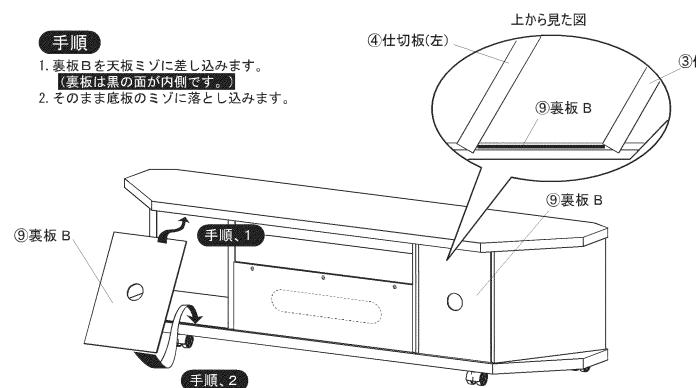


ご注意
裏板には配線処理用として上図の点線部が
あくようになっています。右図のように切り込み
の接続部をカッターなどで切り取ってください。
切り込みの接続部の際は、カッターの取扱いに十分ご注意ください。
裏面に続きます

8 裏板Bの組み立て

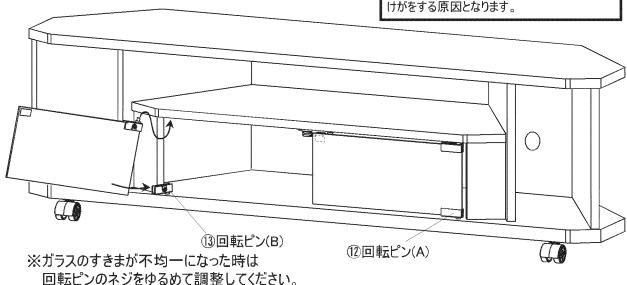
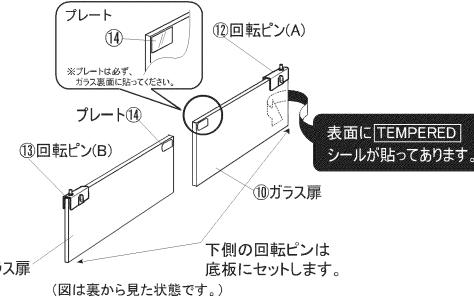
手順

- 裏板Bを天板ミゾに差し込みます。
(裏板は裏の面が内側です。)
- そのまま底板のミゾに落とし込みます。



9 ガラス扉の組み立て

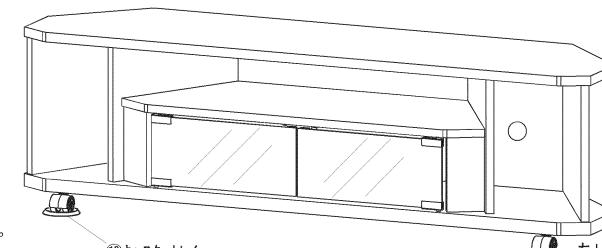
ガラス扉を図のように2枚セットし、取り付けてください。



10 完成

【耐荷重】

天板: 30kg以下
棚板: 10kg以下
底板: 10kg以下
総耐荷重: 50kg以下
※この範囲内でお使いください。



ありがとうございました。

テレビ転倒防止(前面方向)についてお願い

テレビにお子様が登ったり、握ったり、押したりされますとテレビが前面方向に倒れるおそれがあります。その際の事故防止と地震等、非常時の安全確保のために、転倒防止を下記にもとづき実施して頂きますようお願い致します。

テレビの転倒防止処置についてはテレビ付属の転倒防止用部品にて対応出来る場合ございます。

テレビの取扱説明書をご参考の上、テレビ付属の転倒防止用部品をテレビ台付属の転倒防止用部品のどちらか適した方を選択し取付けください。



*テレビ側に固定するネジは付属しておりません。

[テレビの形状により下図の様にお取付けできないものもございますので、ご了承ください]

手順 1

テレビ本体のねじまたは、テレビに付属されている転倒防止用金具(固定ねじ・クランプ等)にロープをかけます。

*取付穴は壁掛け金具取付用ネジ穴などを使用します。

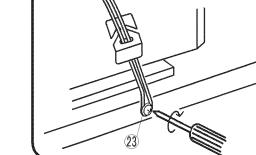
<テレビ本体のねじの場合>



上図の様にロープを結んで取付けをします。
※必要に応じて④ワッシャーをご使用ください。

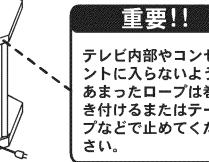
手順 2

ロープが輪になっている部分を図の様に転倒防止ロープ用ネジで天板に仮固定をします。
ネジは完全に締めないでください。



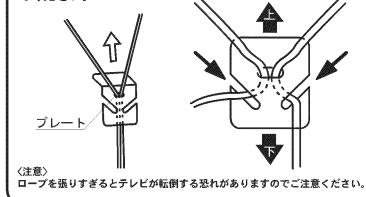
手順 3

片側と同様にロープを取付けます。



手順 4

ロープがV字状に取付けが出来たらプレートを図の向きにし、上に引き上げてロープを張らせます。ロープが張った状態でプレートのミゾにロープを引っ掛け固定します。最後に手順②の転倒防止ロープ用ネジをしっかりと締付けください。



使用上のご注意

説明書には、お使いになるかたや他の人の危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しく設置し使いつただくために、重要な内容を記載しています。次の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■表示と図記号について

△警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

△注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

!**警告**

■ テレビやスタンドにぶら下がったり、上に乗ったり、寄りかかったりしないでください
テレビが転倒したり、機器が落下したり、こわれたりしてけがの原因となります。特に子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 振動のある場所に置かないでください

振動でテレビが転倒したり機器が落下しけがの原因となります。

■ ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所には設置しないでください

テレビが転倒しけがの原因となります。水平で安定したところに据え付けてください。

■ 部品を改造しないでください

スタンドの強度が保たれなくなりテレビが倒れたり、機器が落ちたりしてけがをする恐れがあります。

!**注意**

■ 薄型テレビ以外のものを載せないでください

本商品は薄型テレビを収める専用スタンドです。

その他のものや重いものを載せないでください。

■ テレビはテレビスタンドの中心に設置してください。

設置のくらんが悪いとテレビが倒れたり、こわれたりしてけがをする恐れがあります。

※ 記載されている耐震度を超える機器は載せてください。

■ 手や指はさまにご注意ください

ガラス屏や可動部に手や指をはさましないようにしてください。けがをする恐れがあります。同時にテレビを設置する時もご注意ください。

■ 移動・設置における

● 剥離させたままでは接続している端子を取り外してから行ってください。

● 組立で折れたりする恐れがあります。

● 移動させた後に、このゆるみ金属のガタツキがないか確認をしてください。

ガタツキがあると変形・絶縁をする原因になります。

● ヤンマーで移動させる時はゆっくりと動かしてください。床面の段差がある所は押上げてゆっくりと動かしてください。フローリング床の表面がやわらかい場合、キャスターの移動跡が残る恐れがあります。

■ 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には設置しないでください

さびや故障、変形の原因となります。

■ ガラス部品について

ガラスは強化ガラスを採用していますが、強い手を振ると割れる恐れがあります。割れるとガラスの破片が飛び散りけがの原因となりますのでご注意ください。

● ガラスを落とすとき、手足間に間にまわさないからといって衝撃を与えないでください。強引に落とすとけがの原因となることがあります。

● 折れても力を抜いてから、ガラスを落とさないでください。

● 強引に落とすとけがの原因となることがあります。

● ガラスに傷がつくと突然爆発することがあります。

■ 放熱を妨げないでください

過熱を防ぐため、内面に熱がこもり、火災の原因となることがあります。壁に押しつけないでください。(10cm以上の間隔をあけます)

■ 固定用ネジ・チョウバソなどが緩んだまま使用しないでください

变形してテレビが倒れたり、機器が落ちたりしてけがをする恐れがあります。

注意

ガラス扉のフィルム面は裏(内側)にしてください。
フィルム面に傷つけると破損しやすくなり、けがをする原因となります。